

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101451		
法人名	医療法人社団 郁栄会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム サンライズ硯川		
所在地	熊本市北区硯川町767-1		
自己評価作成日	令和 6年11月10日	評価結果市町村報告日	令和 7年 3月 19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和7年 1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔」「安らぎ」「感謝」の理念のもと、利用者お一人おひとりの思いやペースに合わせて、身体面の健康と心の安穩を目指したケアを行っている。安心できる環境の中での本人の役割や楽しみを見い出し、継続して取り組んで頂くことでやりがいに繋げている。

ホーム内は天井が高く中庭もあり開放感がある。全居室冷暖房完備はもちろんのこと、食堂には床暖房を敷いており、季節を問わず快適な生活を送っていただけ。利用者はその時々々の状況や要望に応じた支援により、安心して暮らせている。母体となる北部脳神経外科、隣接する介護老人保健施設かなこぎ苑とは24時間連携体制がとられている。食事は管理栄養士が献立を立て調理師により調理されたものを提供している。又季節の行事食や入居者の状態に合わせた食事の提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回外部評価よりの2年間、入居者の入れ替わりもみられ、また入居者の高齢化や介護度が高くなったことにより、より個別ケアが必要な場面が増えた様子が見られました。そのような中、職員皆さんでの会議や研修等では自身の介護に対する振り返りもよくされており、「繰り返しの学びが必要である」と力を入れておられます。感染対策も継続したまま行事や季節のイベントも行い、理念の一つでもある「笑顔」を大切にされており、職員面談では「笑顔が続くように」日頃のケアに臨む姿勢が聞かれました。介護度が高くなると転倒や怪我のリスクも高くなると思いますが、安全対策を行いながらも「見守りがここの役目である」との思いを持つ管理者の気持ちを感ずる事業所です。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	書道を得意とする利用者を書いてもらった「笑顔」「安らぎ」「感謝」の理念をフロアから見やすいところへ掲げている。マスク着用により、表情が相手に伝わりにくくなっているため、目元を意識したり声のトーンにも気を配りながら笑顔と安らぎを届けている。利用者からは日常的に感謝の言葉を頂く事ができている。家族へは、広報誌等を通じて利用者の笑顔が届られるように、毎月の発行を続けている。	理念である「笑顔」「安らぎ」「感謝」の実現に向けたケアに臨んでいる。職員面談でも入居者の「笑顔」のに関する言葉も多く聞かれ、職員全体で理念に沿ったケアに臨んでいる様子があった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染防止の観点から外部との直接的な接触は制限しているが、窓拭きボランティアをはじめ地域の方々と交流している。	コロナ禍以降入居者と地域の交流は難しい状況が続いている。地域では従来より窓ふきボランティアが続いており、今年も事業所への来訪があった。	コロナ禍以降の感染対策や、車椅子利用が増えたこと等もあり、入居者と地域との関わる機会が減ってきているようです。できる状況になった際には、是非入居者と地域の繋がりをを感じる取組みに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内での感染症の蔓延を予防するために地域との関わりは制限している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で運営推進会議の開催は見送っている。家族や地域包括支援センターへは書面にてホームの状況報告を行っている。	現在も感染症の影響で対面での開催に至っておらず、書面での報告を行っている。入居者の生活状況や日頃の活動、職員の配置や研修状況等を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政からの調査・アンケートには必ず回答して連携を図っている。事故があった際は速やかに市の担当者へ報告している。コロナ対策に関しても、市からの通達に沿った対策を行い、利用者の安全確保を第一に対応している。また、LIFE(科学的介護情報システム)の利活用のより、市と連携してケアの質の向上に努めている。	市役所へは報告や相談、届け出等、日頃の関わりの際に事業所の取組みを伝えている。包括支援センターからは行事の際等に声掛け等頂いている。従来より地域へ福祉・介護の啓発のため連携・協力している。	

グループホーム サンライズ硯川 百合ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の身体拘束ゼロ対策委員会のメンバーとして当ホーム職員も活動し、日頃から言葉等でも行動を抑制しないように心がけている。玄関は安心・安全のため自動で施錠する仕組みとなっているが、利用者の希望がある時は職員が付き添い外出の支援を行っている。年に2回、身体拘束に関する勉強会を行い意識を高めている。	法人内の身体拘束ゼロ対策委員会には管理者を主として参加している。今年度は「虐待防止における不適切ケア(グレーゾーン)」に対する知識・意識の向上に努める」ことを年間活動目標とし取り組んでいる。事業所内では委員会の内容を周知するとともに、職員へアンケートを実施している。職員間では言葉遣いについて自分の振り返り等の意見が度々出されている。身体拘束ゼロ対策委員会の今年度目標を「虐待防止における不適切ケア(グレーゾーン)」に対する知識・意識の向上」と掲げ、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度も事業所内での研修を継続的にを行い虐待防止に努めている。慣れや多忙等で見過ごす事がないように注意を払い話し合いながら、不適切なケアや虐待に至らないように振り返り、チームケアを活かして支援していくようにしている。法人の委員会と連携を図りながら虐待防止のための研修を行い、職員全体の意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の権利擁護の視点に立った介護の基本的な考え方や認知症ケアのポイントを学ぶ機会を設けて、ホーム内の勉強会では職員全員のコメントを残すようにしている。本人・家族が安心して暮らし任せられる環境、利用者の権利が守られる明るい事業所となるように努めている。		

グループホーム サンライズ硯川 百合ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際し、見学も含め事前に訪問したり面接を行ない、サービス内容・契約内容の説明を行い、理解・納得を得ている。制度改正に伴う契約内容の変更に関しても、十分に説明を行い書面で承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に面会時や電話で状況報告し、本人の生活の様子や健康状態、本人からの要望等について話をするようにしている。いただいた意見や要望は運営面で活かすようにしている。	感染対策も続いているが、入居者の生活の様子は事業所より家族へ電話等で報告し、共有できるよう取組んでおり、できるだけ来訪頂けるよう声掛けも継続している。家族より得た意見は検討し運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	感染防止、職員の業務負担軽減の観点から職員全員で集まる機会は設けていないが、各ユニットごとに小規模な会議を行い職員同士で意見をだし合っている。また、日々の業務申し送り時や業務中にも職員の意見やアイデア・要望を聞いて運営に反映している。	現在は全職員揃っての会議等を行っていないが、入居者の日々の課題等、ユニット毎の職員による話し合いは日々行っている。管理者もケアに携わっており、職員はいつでも管理者へ意見・提案を伝えることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得後の昇給を行ったり、定期的な交流の場を設けたりしている。また、日々の業務の見直しを行い効率化を図り、職員が働きやすく時間を有効に活用できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内勉強会や委員会活動、ホーム外の研修(オンライン研修)に参加できる機会を設けている。資格取得試験を目標に自己学習をしていくことを勧めている。定期的な教育マニュアルの見直しを行いながら、新入職者を対象とした教育はもちろんのこと、既存の職員が介護へのやりがいを持続していけるように、ホーム内での勉強会にも力を入れている。		

グループホーム サンライズ硯川 百合ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との交流の機会も増えてきており、他の事業所の取り組みを知ること で自事業所の業務にも活かすことができている。地域の感染症の状況を考慮しながら、今後も活動の幅を拡げていきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、直接、思いや悩み等を聴いている。また、家族や入院（所）されていた病院（施設）から本人に関する情報を収集・整理して、ホームの職員に伝達し共有に努めている。新しい生活の場に来られた本人の不安を軽減できるように、集中的なかかわりを持ちながら、安心できる関係・居場所づくりを一緒に行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ずホームの見学、面談を何度か行い、ホームでの生活を見て頂いている。その中で家族の要望や思い、不安や悩み等に耳を傾け関係づくりに努めている。家族との信頼関係を意識した会話をするように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの役割を十分に理解してもらってから、サービスを利用して頂いている。本人、家族の意見を聞き、緊急性、必要性を考慮し、かかりつけ医、ケアマネ等と相談して対応している。		

グループホーム サンライズ硯川 百合ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の好まれること、できることは何かを見極め、職員間で情報共有し、家事活動やレクリエーション活動を共同で行い、共に支えあう関係を築いている。様々な生活場面や会話をすることで、指導や共感、励まし、感動、感謝等の気持ちを頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時には本人の生活の様子を報告し、家族の要望や思いを確認している。面会方法の変更を行い、本人と家族がより身近に触れ合える環境を提供できるようにしている。面会時の気づきは職員間で情報共有し、家族と同じような思いで支援していけるように努めている。電話での報告も行いながら、本人の生活状況や健康状態を共有している。必要な物品等は家族の協力も得ながら本人の元へ届けるようにしている。広報誌を毎月発行し、ホームでの様子を写真でも分かるように家族へお届けしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来られた時も家族と同様な面会方法で対応を行っている。日常の会話の中でも馴染みの関係を話題にして、生き生きとした表情を見せてもらえるように関わりを持っている。看取りの場合は、居室で直接本人と家族が面会できるように配慮している。	コロナ禍以降、家族との関係が希薄にならないよう、面会方法を工夫しながら受入れてきた。家族との外出や馴染みの方の来訪もある。入居前からの趣味や嗜好品等も生活に取入れ、生活の継続に取り組んでいる。	

グループホーム サンライズ硯川 百合ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者同士の関係性の把握に努め、お互いに気が合うかどうかも含めて食堂テーブル席の組み合わせ等に配慮している。家事活動やレクレーションを通して、利用者同士の関係が円滑になり、協力してできるように支援している。また、利用者同士に共通点等があった場合は会話のきっかけとして提供し、お互いの関係をつなげる支援を行っている。利用者同士もお互いの存在を意識し合うことで、安心した生活に繋がっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族や関係機関と連絡を取り合い情報交換をしている。また、必要に応じて相談や支援も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	業務の都合が優先とならないように本人、家族の思いや意向の把握に努めている。また、本人の能力だけでなく、その時々「やりたい」「やりたくない」の意味も大事にしている。日頃の関わりや会話の中からも思いを知るように努めている。本人が言葉で意思表示することが難しい場合も、表情や行動等を観察し把握に努めている。アセスメントシートでも最初の項目としており、本人の思い、意向は大切にしている。	入居者の思いや希望・意向は、職員の日頃の寄り添いや日常会話の中から把握している。思いを表すことが難しい入居者に対しても、これまでの生活歴や馴染みの関係、趣味等、それぞれに合わせた話題で会話を楽しみ、入居者の笑顔を大切にしたいケアに取り組んでいる。晩酌を希望される方もおられ、家族の協力を頂きながら生活の継続に取り組んでいる。	

グループホーム サンライズ硯川 百合ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や関係機関から本人に関する情報を集め、これまでの暮らしの把握に努めている。新しく入居された利用者からは「生活習慣・生活歴シート」を頂き活用している。また、入居後に得た情報も職員間で共有できるように、業務日誌や介護記録等に記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしで関わりを持ちながら本人の観察を行い、状態変化や本人の過ごし方、訴え等をチームとして把握し、継続的ケアをするように努めている。定期的に本人のアセスメントを行い、客観的な視点からも本人の状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と居室担当者を中心に、本人、家族の生活に対する意向や要望を把握し、職員間でも意見を出し合い協議した上で介護計画を作成し、サービスを実施している。サービスの実施・モニタリングはケアプラン実施評価表を用い確認を行なっている。本人の状態や暮らしぶりに合わせてプランの期間を設定し、それぞれの利用者に合わせた見直しを行っている。本人の状態変化が著しい時は、その都度プランを変更するようにしている。	日々の生活の記録や毎日項目ごとにチェックを行うケアプラン実施評価表をもとに、計画作成担当者と居室担当職員を中心に、家族の意見・意向も確認して介護計画を作成している。入居者本人の意向だけでなく、家族の意見・意向も大切にしており、面会時や電話連絡等で入居者の状況をこまかく報告することで共有している。介護計画見直しの際には、変更点を管理者より丁寧に説明している。身体状況変化の際には介護計画を都度見直し、現状に即した内容としている。	

グループホーム サンライズ硯川 百合ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を、利用者毎に毎日、個別記録に記入している。記録内容を把握した上で業務に入るようにしている。勤務交代時には申し送りを行いお互いの理解を深めている。介護計画更新時には介護記録を見直し、本人の現状に即した計画を立てるように努めている。サービス実施後に多少の修正が必要な項目については、日頃の申し送り等も活用して検討を重ねてから変更し、実践へと反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎、日用品の購入支援等を行っている。また、医療機関と連携を図りながら点滴の支援を行っている。隣接する老健の理美容サービスが受けれるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域生活を継続していくために、本人と関係ある人や民生委員等の存在を把握し、協力関係が築けている。法人内施設行事への参加や地域のボランティア等を受け入れ楽しむことができるよう支援している。		

グループホーム サンライズ硯川 百合ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行い、納得が得られた医療機関への受診を支援している。受診は本人、家族の了承を得てから行っている。状況によっては、かかりつけ医から他の医療機関への紹介をもらっている。大きく体調の変化がない利用者に関しても、毎月本人の状態をかかりつけ医に文書で報告している。ワクチン接種も速やかに受けられるように、本人、家族の同意の上、かかりつけ医と協力して計画的に実施している。	入居以前のかかりつけ医の継続した受診を支援している。現在は全員が協力医をかかりつけ医としており、定期受診の際は職員付き添いで通院する。緊急の場合はかかりつけ医に相談し、検査や他医療機関への紹介とつなげている。家族には受診後に結果を報告し、情報の共有を行っている。必要時には診察時に家族同席もお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者の体調の変化に気づいたら速やかにホーム看護師に伝えている。看護師の判断の基、医療機関への受診ができるように支援している。受診後も看護師と共に医師の指示のもと、経過観察を行っている。看護師とは24時間連絡がとれる体制を整えている。医療的な知識を要するケアについては、看護師から介護職員へのアドバイスを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、病院関係者と情報交換し本人の状態把握に努め、再入居可能な状況であれば、早期退院に向けて家族、医師、看護師等と相談し決定している。		

グループホーム サンライズ硯川 百合ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に急変・重度化した場合の医療連携体制について説明し、同意書に署名・捺印を頂いている。本人の日常の様子を理解してもらい、事業所でできることについての説明を行っている。看取り介護を行う場合も、家族に看取りの方針を説明し同意を得た上で、かかりつけ医と連携しながら支援している。看取りについての勉強会を事業所内で毎年開催し、職員の理解を深めている。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所での取組みや対応について説明し、同意を得ている。家族には日々の様子をこまかに伝えることで情報を共有している。体調変化時には都度家族と話し合い、医師からも家族へ説明が行われる。家族へも丁寧に、納得頂けるまで説明を重ねる。看取り期には居室で家族と入居者が時間を過ごして頂けるよう配慮した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを整備しており、定期的に周知を行っている。また、急変時の対応を行った場合は、適切な対応であったか等の振り返りを行い、次につなげられるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練を利用者、職員参加で年2回行うとともに、感染症や自然災害時の業務継続計画を整備したことで災害に対する意識の向上を図っている。また、定期的な見直しや勉強会、訓練を行い、災害への備えの充実を図っていきたい。隣接する施設との協力体制も整えている。	年2回の避難訓練は入居者も参加し行っている。非常時の動きについては「アクションカード」を作成し、絵や写真を入れたフローチャート式で理解を促している。非常時持出し品はバッグにまとめ、いつでも確認できるようにしている。備蓄は最小限ではあるが、隣接施設があるため、協力体制が整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や歩んでこられた人生を尊重し、個々に合わせた言葉かけや対応を心掛けている。個人情報とは他利用者や来訪者から見えないように努めている。本人の個別の空間を大切にするために、ドアやカーテン等を有効に活用し、プライバシーを損ねないように配慮している。個人情報保護及びプライバシー保護のついで勉強会を行い、職員の意識を高めている。	入居者それぞれの性格や生活歴等を尊重した声掛け・対応を行っている。研修も重ねており、言葉遣いに関しては研修や振り返りを重ねており、管理者より「相手の立場に立った」言葉遣いや対応を常に伝えている。研修・勉強会を行った際には受けるだけでなく感想・振り返りを求めている。	職員会議や勉強会、職員アンケートでも言葉遣いについてよく意見が出ていた様子がありました。言葉遣いの乱れは虐待に繋がるとの意見もあります。今後も、自身を振り返り、繰り返し職員間で話す機会作りの継続に期待しています。

グループホーム サンライズ硯川 百合ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人が理解できる言葉かけや話題の提供に努めている。自己決定しやすいように選択してもらったり、問いかけの工夫をしたりしている。自己決定が困難な利用者へは性格や好み、その時々表情やしぐさ等を考慮して決定の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望やその日の体調・気持ちを優先して支援している。以前からの暮らしを重視しながら、ここでも安心して生活してもらえように支援している。本人が活動等に参加したくなるように、声かけ等の工夫に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択ができる方には選んで着てもらっている。各利用者の好みの衣服の把握に努め、汚れていないか、ボタンのかけ間違えないか、季節に合わせた選択ができているか等、支援の必要な方には注意を払っている。顔や手等のお手入れをされる方については、必要な物の購入支援や家族への依頼を行っている。散髪や髪染めができるように、隣接施設の理美容室への予約・送迎も支援している。		

グループホーム サンライズ硯川 百合ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前には隣接施設の厨房まで利用者と食事を取りに行くこともある。食事前や食事中にはメニューや味付けのこと等を話題にして食事を楽しむ工夫を行っている。ゆっくりと食事を楽しむことができるように、BGMを流して心地よい雰囲気づくりを行っている。食後には食器洗いやタッパー拭き、おぼん拭き等、それぞれの利用者のできることに合わせて活動を促している。また、朝食は手作りを行っており、出来上がりを楽しみにされていることもある。文字を書くことが好きな利用者には食事前に献立を書いてもらい、見やすい所に掲示している。	昼食・夕食は隣接施設の厨房で手作りされた食事であり、事業所で配膳する。食事の味付けや入居者の嗜好等は常時伝えることができ、毎月法人で栄養科ミーティングを行っている。入居者それぞれ、出来る事のお手伝いをお願いしている。日々の献立は入居者に書いて頂いている。おやつは事業所でよく手作りしており、焼き芋パーティや季節のイベントでも食事やおやつを楽しむ工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の立てた献立を基に調理師が調理した栄養のバランスが取れたものを提供している。水分は食事の時以外にも食間等に提供したり、好まれる飲み物の種類や温度に配慮したりしながら促している。毎月体重測定を行い、体重の増減を見ながら主食量の調整等を行っている。食事時間にとられないように利用者の食べるタイミングを見計らいながら提供することもある。摂取にムラがある利用者には、食べ方の特徴等を把握しながら、その人に合った食事の勧め方を支援している。		

グループホーム サンライズ硯川 百合ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きが出来る利用者へは毎食後声かけを行ない歯磨きを見守っている。介助が必要な方へもその方の能力に合わせてケアを行い、清潔保持に努めている。義歯を使用している利用者には、夜間は外して洗浄剤を使用できるように支援している。治療が必要な場合は、歯科往診が受けられるように配慮している。口腔ケア用品も定期的に消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて全利用者の排泄を記録し、排泄の状況やパターンの把握に努めている。利用者の状態に合わせて、できるだけトイレでの排泄が出来るように支援している。介助の必要な利用者には一人ひとりの排泄のパターンに合わせた誘導を行うよう努めている。排泄の失敗があっても、本人が苦痛に感じないように対応を考慮している。	できるだけトイレでの排泄を支援している。オムツを使用する入居者も日中一度はトイレに座って頂く取組みも行っている。パット等利用の方で、大きさの変更が必要となった際には検討を重ね、家族へ説明を行っている。職員ミーティングでも、家族の負担にも配慮し、パットやオムツのサイズ見直しについて度々検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を記録し情報共有し、個々の排便パターンを把握した上でコントロールを行ない、便秘予防に努めている。便秘にならないように運動(体操や日常生活動作等)や水分のこまめな補給促しを心掛けている。便秘解消に向けて食品(オリゴ糖等)からも摂取できるようにしている。		

グループホーム サンライズ硯川 百合ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には回数を設定して入浴を実施しているが、本人の気分や体調によって臨機応変に対応している。入浴の手順や湯温の好み等を把握し、できるだけ本人に合わせた支援を行っている。歌を唄ったり色々な話をされたりすることも多く、ゆっくりと入浴を楽しむことができるように、できるだけ湯船につかっていただいている。入浴をいつも断られる利用者には清拭や部分浴等も勧めながら介助を行い、清潔保持に努めている。	週2回を基本とした支援を行っている。入居者の身体状況もそれぞれであり、より個別対応が必要となってきたことから、必要に応じユニット間で協力しながら介助を行っている。入浴時の全身観察を大切にしており、キズ等が見られる際には必ず記録に残し、次回入浴時にも確認を行っている。入浴後は乾燥にも配慮し、クリームや保湿剤の塗布も続けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間でも利用者の希望や体の調子に沿ってベッドで休む時間を設けている。夜間安眠できなかった利用者がいたときは、1日の関わり方を通して見直し、本人が気持ちよく休めるように職員で話し合っている。1日を通しての安心感を大切に、本人にとって心地よい環境づくりを行い、できるだけ薬には頼らないで安眠できるような方法を探るように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての利用者の内服薬は看護師を中心にマニュアルに沿ってホームで管理している。服薬に関しては4重チェックを行ない、厳重な管理のもと誤薬防止に努めている。必要時は看護師が医師と連携し服薬の調整を行っている。服薬変更後は特に注意して本人の様子を観察するように努めている。薬の飲みやすさにも考慮して、本人に合った形状で処方してもらえるように医師へ情報提供を行っている。安全、確実に内服できるように、それぞれの利用者毎に与薬方法を示して服薬を支援している。		

グループホーム サンライズ硯川 百合ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれに合わせて家事活動やレクレーションへの参加を勧めている。日常的に体操、歌のレクレーションを行っているほか、月毎に行事の予定を立てて取り組んでいる。個別に楽しめるレクレーションについても、本人の思いや意向に合わせて行うようにしている。本人の意欲や役割に対しての責任感を大切にして、達成した時には喜びを共有し、本人に感謝やお礼を伝えることを大事にしている。また、本人が楽しい気持ちで終わられるような量や時間にも配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば職員付き添いのものと、すぐに戸外に出られるように支援している。天気の良い日はホーム周辺を散歩したりしている。日常的に外出できない方もホーム周囲で外気に触れることが出来るように支援している。	気候が良い時の敷地内散歩は日常的である。希望があれば、ドライブや買い物等職員が付き添う。家族協力にての外出も支援している。敷地内には桜やつつじ等季節の花木があり、寝たきり状態の入居者も可能であれば花見に出て季節を感じるよう取組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人でお金を管理できる利用者には所持してもらっていたが、現在は認知症の症状の程度から紛失防止のためホームで預り金を管理している。外出や買い物で必要な時はすぐに使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は家族の意向も考慮した上で支援している。本人からの要望がある場合は速やかに家族に伝えるようにしている。希望があれば本人にも電話を取り次いでいる。本人宛の手紙等が届いた場合は、すぐに本人の手元に渡るようにし、手紙の内容が理解できるように支援している。		

グループホーム サンライズ硯川 百合ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すために季節のお花を飾ったり貼り絵を壁に貼ったり、吊るして飾るようにしている。風通しは良いが夏場の暑い時期、冬の寒さが厳しい時はエアコン、床暖房等を利用して快適な空間で過ごしてもらえるように配慮している。建物内の掃除は細かく分担しており、できるところは利用者も一緒に行ない、きれいな空間で過ごせるように心がけている。	入居者が日中過ごすことが多い食堂空間では、静かに過ごす方、みんなで体操を楽しむ方等、それぞれの姿が見られる。入居者の意向により、居室で過ごすことも自由である。ユニット間の行き来も自由で、隣のユニットからの来訪を職員も受け入れ、共に過ごす時間もある。入居者の安心安全な生活のために整理整頓・掃除に配慮している。トイレや居室入り口の名前表示等、入居者それぞれの状況に合わせた対応を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂談話室を居室が囲っているようなユニットの作りであるため、独りになりたい時はすぐに居室に行ける。南側廊下の窓辺にはソファを置き、利用者の安らぎの場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人にとって懐かしい写真や思い出の品物等自由に持ってきてもらっている。希望に沿ってテレビやイス等の家具の持ち込みも行っている。居室で過ごされている時は安全が確保されている場合はできるだけ入口ドアは閉めるように配慮している。居室担当職員を中心に整理整頓を行っている。本人ができる場合は、本人と相談しながらすすめている。	居室には押入れもあり、整理整頓が行き届いている。入居時には使い慣れた生活用品の持ち込みをお願いしており、「家でできていたことはできるように」と、生活の継続に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手すりや浴室、トイレ、廊下等の居住環境が適しているかを考え、安全確保と自立への配慮を意識している。利用者が掃除・炊事・洗濯等で安全に活動しやすいよう生活環境を整えている。居室やトイレの位置を示す表示をすることで、利用者自身がわかる工夫を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101451		
法人名	医療法人社団 郁栄会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム サンライズ硯川		
所在地	熊本市北区硯川町767-1		
自己評価作成日	令和6年11月9日	評価結果市町村報告日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和7年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な地域の中にある当グループホームからは、西側に金峰山三系を一望できる。母体となる北部脳神経外科、隣接する介護老人保健施設かなこぎ苑とは24時間連携体制がとられている。食事は管理栄養士が献立を立て調理師により調理されたものを提供している。又季節の行事食や入居者の状態に合わせた食事の提供を行っている。ホーム横には専用の家庭菜園があり旬の野菜を栽培している。ホーム内は天井が高く中庭もあり開放感がある。全居室冷暖房完備はもちろんのこと、食堂には床暖房を敷いており、季節を問わず快適な生活を送っていただける。利用者はその時々状況や要望に応じた支援により、安心して暮らせている。家族の希望があれば感染予防を徹底して窓辺や玄関での面会対応ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	百合ユニットと同じ		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	百合ユニットと同じ		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	百合ユニットと同じ		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	百合ユニットと同じ		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	百合ユニットと同じ		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	百合ユニットと同じ		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	百合ユニットと同じ		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	百合ユニットと同じ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	百合ユニットと同じ		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	百合ユニットと同じ		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	百合ユニットと同じ		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	百合ユニットと同じ		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	百合ユニットと同じ		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	百合ユニットと同じ		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	百合ユニットと同じ		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	百合ユニットと同じ		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	百合ユニットと同じ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	百合ユニットと同じ		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	百合ユニットと同じ		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	百合ユニットと同じ		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	百合ユニットと同じ		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	百合ユニットと同じ		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	百合ユニットと同じ		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	百合ユニットと同じ		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	百合ユニットと同じ		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	百合ユニットと同じ		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	百合ユニットと同じ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	百合ユニットと同じ		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	百合ユニットと同じ		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	百合ユニットと同じ		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	百合ユニットと同じ		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	百合ユニットと同じ		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	百合ユニットと同じ		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	百合ユニットと同じ		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	百合ユニットと同じ		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の尊厳に配慮した声かけ、対応を意識しているが、より適切な支援ができるよう声かけの方法や対応について勉強会を通して見直しを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて、声をかけ、意思表示が困難な方には、表情やその時の行動を読み取りながら些細なことでも思いを表出したり自己決定できるよう支援を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調や思いに配慮しながら趣味・家事活動やレクリエーション、休息等柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、就寝時、入浴後の着替えは、できるだけ本人の意向で決めており、職員は見守り、必要な時に支援をしている。本人や家族の好みや希望に合わせたカットや毛染めをしてもらえるよう、理・美容を支援している。今年度も感染症対策の為、訪問のエステは中止している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は食事の準備や盛り付けは利用者と一緒ににはできてはいないが、食事を楽しみにされておられるので、刻み食やミキサー食の方にも献立や旬の食材などの紹介も行い、季節を感じられるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の立てた献立を基に調理した栄養バランスが取れた食事を提供している。摂取量は毎食記録し、月に1度の体重測定を行なっている。個々の状態に応じた食事形態の工夫や量の調整にて支援している。食事時のお茶以外での水分補給も、麦茶、コーヒー、スポーツドリンク等を好みで提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔アセスメントを実施し、自分で出来る方には食後の歯磨きを声かけし、介助が必要な方は職員が付き添いその方の能力に合わせて支援を行っている。口臭や口腔内トラブルがある場合は家族の同意を得て歯科往診を受けられる様支援している。歯科医師からの助言も活用して対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パンツで夜間のみリハビリパンツ、尿取りパットを使用する等、個別の排泄表を使用し、時間や排泄のサインを見逃さないようスタッフ間で共有し、トイレ誘導し排泄できるよう支援している。それぞれの利用者の状態の変化に合わせてパッド類の見直しも行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜中心の献立になっている。便秘になりがちな方には、食事の面では十分な水分補給や牛乳・芋・ゼリー等をおやつ作りに取り入れている。軽い散歩・家事活動・体操等身体を動かす機会を設けて自然排便できるよう取り組んでいる。排泄表で個々の排便パターンを把握し、必要に応じた緩下剤を使用することで排便コントロールが出来る。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は週に2～3回入れるように予定しているが、本人の体調や思いに合わせてシャワー浴、足浴、清拭、ウォシュレット使用等で対応している。発汗の多い方入浴好きの方、失禁等個別に対応している。羞恥心、恐怖心、負担感等配慮しながら支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めている。一人ひとりの睡眠の状況を把握し、スムーズに就寝や休息が取れるような周りの雰囲気作りや声かけの方法、飲み物等工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表や薬効表、内服管理マニュアルをファイルし、職員が内容確認できるようにして確実に服用するよう支援している。薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化がみられる時は、協力医療機関との連携を図れるようにしている。本人の状態の経過や内服薬の変更等に関する情報は家族へも報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事前のテーブル拭き、食器洗い、掃除、洗濯干し、たたみ等の家事全般等で一人ひとりの力を発揮してもらえような仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。日中は、ホールに集まって体操や童謡を歌ったり、簡単なレクリエーションやお楽しみ会を実施し、スタッフと利用者が楽しみながら活力を引き出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの畑等に散歩がてら、季節の草花と一緒に眺めていただけるようできる限りの支援を行ない、少しでも気分転換ができるよう配慮している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外に出て自由に買い物ができる機会が少なくなっており、ご家族に依頼したり、職員が代行して購入している。職員の配置などの状況を考慮しながら、買い物の支援も検討していけるようにする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から連絡があった際に、電話口で話されることはあるが、本人から電話をかけたいとおっしゃられる方や、手紙を送りたいと希望される方は今はおられないが、希望された時に対応ができるようにしておきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に作成した季節の飾りやテーブルに季節の花を添えて家庭的な雰囲気作りに努めている。また、一人一人が混乱されないように、壁やドアは落ち着いた色を使用し、トイレや浴室の入口にはわかりやすいように表記している。必要な方には居室の入口に表札を設置している。居心地良く自分なりの活動がしやすくなるようなテーブル・椅子の配置を工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで窓の外の景色を感じながら雑誌を見て過ごされたり、ご自分の席でTVや新聞広告を見られたりと、思い思いに過ごされている。利用者同士で会話しながら、塗り絵・貼り絵作業をしたり、一人でくつろいだりと思ひ思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真、使い慣れた椅子やテーブル等を居室に持ち込まれ、利用者の居心地の良さに配慮している。又、ここで作成された干支の置物を大事に窓際に飾られておられ、長く入居されたおられる方は、本当に家のような場所になっていると感じる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態にあわせて、手すりや浴室、トイレ、廊下等の居住環境、食事の席や食器等へも考慮しながら、安全確保と自立への配慮を意識している。利用者が掃除・洗濯等で安全に活動しやすいよう都度見直しをしながら生活環境を整えている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 サンライズ硯川

作成日 令和 7 年 3 月 1 2 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2449	コロナ禍以降、利用者と地域の交流は難しい状況が続いている。	利用者と地域の関わりが感じられるような取り組みを行う。	・感染対策を維持しつつ、ボランティアの来訪を現在よりももっと積極的に受け入れられるように、関係者との調整を行う。 ・日常的な買い物や地域の行事への参加等、現在よりも利用者の方が地域に足を運べる機会を作っていけるように検討を行っていく。 ・地域運営推進会議の取り組み方について再検討を行う。	12か月
2	636	事業所内の勉強会において学びの充実を図っているが、職員一人ひとりが学んだことを活かし、実践・行動につなげていけるようにならない。	職員は、認知症のある利用者のそれぞれの立場でものごとを考えられるようになり、利用者一人ひとりの人格や誇り、プライバシーを尊重したケアを行う。	・勉強会を継続して行い、職員の学びを深めていく。 ・丁寧な言葉遣い、態度で利用者に接していく。 ・利用者の立場でものごとを考えられるようになる。 ・利用者の言葉や行動をネガティブに捉えるのではなく、ポジティブに受け止めて発言、行動していくことでプラスの効果を生み出していく。	12か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。